

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100368		
法人名	有限会社 都紀		
事業所名	下古賀紀水苑		
所在地	佐賀県佐賀市東与賀町下古賀69-25		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年2月2日	外部評価確定日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H25年7月佐賀市本庄町より引っ越してきて、運営推進会議などを通し苑の存在を少しでも地域の方々に知って頂こうと取り組んでいるところです。当苑はのどかな田園風景が見渡せる環境の中、近隣住民の方より取れたての野菜を頂いたり手作りの惣菜を頂いたりと良好な関係を築けています。入居者様も季節の移ろいが分かりやすいリビングで外の景色に関心を示されます。同敷地内にある同グループのグループホームとも入居者、職員の交流が日常的に行えており、また、都紀3事業所で4回/年行事を一緒にに行い交流を深め、ホームページにて活動内容を掲載したり、業務手順・環境整備・レクリエーション委員会活動で入居者様のよりよい生活環境を目指し活動しています。『ゆっくり・いっしょに・たのしく』を理念のもとスタッフ一丸で取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

家庭的な中に、利用者がその人らしく健やかに安心して生活できる環境を提供している事業所である。事業所は開設以来14年目を迎え、その間、利用者の人間性を尊重し、利用者の一日の生活の流れで「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を実現してきた息遣いが感じられる。代表者の理解と管理者の明るさ、適切な指導とも相まって、全職員が互いに意見を出し合い、スタッフがそれぞれの役割や特徴を生かしながら、毎日の支援に臨んでいる。それが、利用者の豊かな表情となって現れている。職員の明るい笑顔と気軽に話が出来る雰囲気は、利用者と家族に相談しやすいと安心感をもたらしている。 日常の外出支援はもとより、利用者の希望を取り入れた初詣、桜や梅の花見、バルーンや佐賀空港のコスモス見学、外での食事会等もある。 災害対策には「入居者の緊急情報」を作成したり、避難訓練には「地元消防団」「女性消防団」も参加している。地域の自然条件から、万一の水害にも備えている。 地域との交流にも積極的に取り組んでおり、今後とも地域と共生していく事業所の姿が期待される。
--

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念やモットーを玄関入口や事務所・リビングなどに掲示し全スタッフに対し、理念の共有・実践を行っている。新人スタッフには、オリエンテーションや認知症勉強会などで理念の説明を行っている。	掲示されている理念を職員は自分のものとして受け止め、日々の支援にあたっている。定例の会議、日常の業務引き継ぎ、課題が見つかった時等、理念を確認している。管理者の適切な助言と具体的な指導は、職員の意識を一つにまとめ上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶や地域主催のお祭りや散歩、手作りおはぎを入居者と一緒に近隣へ配ったり、お野菜を頂いたりと交流している。	地域の自治会にも加入し、地域との交流を図っている。近所の方の声かけや野菜の差し入れ、ボランティアの訪問等もあり、地域との交流も深まりつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学者や運営推進会議時など相談時に支援方法を伝え活かしている。また、救命救急講習などもお誘いし、一緒に学ぶ機会を作っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の暮らしぶりをお話し・写真等で紹介したり、一緒に行事に参加してもらっている。年度末には一年間の取り組みの報告と次年度の運営推進会議などの予定報告を行い意見や情報交換を行っている。	お話会の名称で二ヶ月毎に開かれている。議題の年間計画も立案されている。行事に参加したり、一緒に食事を摂って意見をもらっている。事業所の方から地域の祭りへの参加について相談する等、地域との交流を運営に活かす姿勢が伺える。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターとは毎月お便りにて取組をお伝えし、運営推進会議に参加頂いたり、包括主催の会議に参加したりと連携を取り合い協力体制にある。また、市役所保護課とも連絡や訪問を受け、関係の構築が出来ている。	主に包括支援センターを中心にして、行政とは利用者の実情や課題、情報を共有する等協力関係が出来ている。生活保護の関係もあり、管理者は福祉事務所や市役所福祉関係の課に度々顔を出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について自施設勉強会や個々の研修にて学び、日中の玄関の施錠を含めて拘束しないよう取り組んでいる。	これまで拘束の事例はない。年間研修計画にも身体拘束に」関する研修会が組み込まれている。スピーチロックによる拘束も無い。玄関の出入りは自由である。非常口や居室の施錠も含めて拘束感はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い日々の生活の中でお互い注意しあい防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学び成年後見制度を利用されている方が2名いらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間を十分にとり説明をしている。利用者、又その家族にも要望や不安を伺いながら理解、納得して頂けるよう努めている。また、改定時には内容・理由の説明を行い理解を得て頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議など機会の度、意見や要望など同うよう努めている。苦情・意見箱の設置やアンケート調査を実施している。福祉サービス運営適正化委員会のポスターを掲示している。	職員は、利用者や家族が話しやすい雰囲気づくりに努め、家族も気軽に相談をしている。事業所独自で工夫した家族アンケートや利用者からの聴き取りアンケートの結果を検討し、支援の質を高める努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議、委員会、食事会などの機会に意見交換できている。また、意見しやすい雰囲気づくりにも努めている。	管理者と職員の間に気持ちの壁が無く、小さな事まで率直に意見を出し合って運営に活かしている。モップの使用や、すのこの工夫は、その一例である。代表者も雑草が生い茂っていた場所に砂利を敷き、環境を改善する等、職員の意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員それぞれの勤務状況、努力の把握に努め、向上心を持って働けるよう条件・環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑外研修は情報提供を行い勤務体制の調整を行っており、研修を受ける機会の確保に努めている。また、自施設勉強会、FC勉強会、委員会主催の勉強会を計画し経験に応じた研修を行い取り組んでいる。昨年は歯科医協力の勉強会を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC勉強会や交流研修、法人内での勉強会・合同行事・食事会を行い交流の場がある。また、個人間でも研修などを通じてネットワークが広がっている。		

自己 外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や訪問をし、安心して利用して頂けるよう生活歴などを頭において言葉かけを行い、不安・要望に耳を傾けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスについての十分な説明を行うとともに、ご家族の困っている事や不安・要望等を伺い、苑で出来るものは対応させていただき、一緒に考え解決していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で、利用者の状態、必要な支援を見極め、よりよいものを勧めるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活活動を協力して行ったり、会話やレクリエーションなどを通じて、共に学び、喜怒哀楽を分かち合える関係性にある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には苑行事・家族会に参加頂き、絆を深めて頂く時間を作ったり、情報交換し共に分かち合い本人と一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には写真を撮り、拡大し自室に貼りだし顔を忘れてしまわれぬ様取組んだり、家族協力のもとアルバム持参して下さっている。また、はがきや年賀状を出し、交流が途切れない様図っている。馴染み深い神社や自宅など外出支援行っている。	利用者の後ろには家族や知人、地域の存在がある事を意識しながら支援している。家族と親類の絆が伺われる古い写真も居室で見受けられた。教師であった利用者に教え子が訪ねてきたり、知り合いが面会に来ることもある。外出の際にその方が生きてきた歴史を知ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事の手伝いなど共同作業の場を設け入居者同士がコミュニケーションしあったり、仲介し、関わりが持ちやすい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退去時、面会に行ったり、相談に乗り、再入居に至ったケースがある。サービス利用が終了しても相談を受け付けており、必要に応じた支援が出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活・会話・行動などから入居者の趣味や興味のある事を引き出し、家族からの聞き取りや表情や言動から汲み取るよう努めている。希望・意向はケアプランに反映出来る様にしている。	入居時の基本的な情報だけでなく、日常的な関わりや何気ない会話やつぶやき、表情、行動の中で、把握に努めている。利用者の思いや希望は、全職員が受け止めており、それが支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面会に行き、生活環境や馴染みの人との関係を把握しサービス事業所より情報提供書をもらうなどしている。また、生活歴シートを活用し情報を集める事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ケアカンファレンスにて一人ひとりの日常生活の流れを検討し、心身状態の把握、残存能力活用、維持、意欲向上できる環境を工夫しケアの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き取り、情報収集し、担当者でケアマネで作成している。毎月モニタリングを行い定期的に評価し、状態変化に応じ見直ししている。	利用者、家族の意向を受け止め、利用者本位でその人らしさが見える介護計画が作成されている。計画の見直しも長期的には6ヶ月、短期的には3ヶ月毎に、また、場合によっては随時行われている。計画作成には全職員、家族が関わっている。職員は同じ認識で支援に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特変時など対応を記録し、申し送りや連絡ノートを活用しスタッフ全員が把握・理解出来るようにしている。また、ケア会議で話し合いケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者との日々の会話、アンケート、家族会などによりその時々家族の状況、ニーズに対応し柔軟に対応し取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなど受け入れを行い、近隣や地域の人たちとも交流し、消防・自治会とも連携。安全で豊かな暮らしが提供できるようにしている。元大工のボランティアにスロープを作製してもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明を行い、協力医に変更したり、希望のかかりつけ医の継続支援を行っている。協力歯科医、協力医療機関より定期的に訪問診療があり、病状の相談や緊急時にも対応可能な連携がとれている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診であるが、協力医療機関での受診が多い。受診にあたっては、家族の付き添いが出来ない時には職員が付き添い、支援している。協力医療機関とは何時でも相談や連携が出来ているため、家族も安心している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中での気づきや変化を24時間相談でき、適切な健康管理できている。また、協力医療機関の看護師にも状態変化など報告し、指導を受け受診や処置が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、早期退院できるように家族、医療機関との連携に努め、日頃から状態変化を家族や病院側に報告・把握してもらい、入居者・家族に安心してもらえるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、意向確認している。状態変化に伴い、家族の気持ちの変化に配慮しながら、意向の再確認を行い、早い段階で主治医・看護師・家族を含め話し合い、方針の共有化を図っている。	きちんとした指針があり、入居時に丁寧な説明や話し合いが行われ、家族の了承を得ている。重度化した場合は本人、家族、主治医との連絡や調整が行われている。職員の心の一本化を図って支援されている。「看とり」の事例もあり、「看とり」の事例もあり、利用者、家族、主治医、全職員の、共通の認識のもとでの看とりであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の講習を定期的に行い、勉強会などで学び、緊急時にはマニュアルをすぐ見れるように設置し迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜設定で年2回避難訓練行ってる。消防署や消防団立会いのもと訓練を行い協力も得ている。苑内に水ハザードマップを掲示し、避難経路の確認や緊急連絡網も確認合っている。	避難訓練にあたっては、女性消防団も参加していて、女性の視線からの助言をもらっている。また、家族の了承を得て、「入居者の緊急情報」を作成し、地元消防団にも開示し、緊急事態に備えている。地域の自然条件の特色からの災害にも備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や気持ちを出来るだけ尊重し、その時々に合わせて言葉かけや対応の仕方をしている。特に排泄場面では配慮している。	利用者一人ひとりの尊厳を何よりも大切にし、権利擁護を基本に置いた支援に取り組んでいる。敬意を込めた丁寧な言葉遣いや、その方の性格や情報を認識したうえでの声かけ、接遇が行われている。個人情報の保護もきちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とのスキンシップや会話を心掛け、個人の能力に合わせた質問など個別に対応し、自己決定や自己表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の生活スタイルを尊重し、楽しく過ごして頂けるよう何をしたいか問いかけや見極めをし対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った色や好みを考え清潔感のあるおしゃれを楽しんで頂いている。買い物の際、衣類を胸に当てたり試着したりされたこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い出しに行ったり、食べたい物を聞いて献立を考えたり、食事の下ごしらえ、盛り付け、あと片付け等能力に応じて役割分担している。	利用者に食事の嗜好を尋ねたり、いただいた野菜や冷蔵庫にある食材を見て、献立を考える等家庭的な雰囲気がある食事である。職員も一緒になって、それとなく見守りながら食事を摂っている。食事介助の方にもエプロンは着けず、タオルをうまく使った支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の健康状態を把握し、好みや噛む力を考え、形態や食材、品数など栄養バランスを考え、食事やおやつを準備し、摂取量や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じてブラッシングしてもらい、仕上げ磨き行っている。義歯の方はブラッシング洗浄剤などを使用し口臭予防や清潔保持に努めている。また、歯科の訪問診療を定期的に受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、それぞれの排泄パターンを把握している。尿便意の訴えが無い方であっても座位保持可能な為昼間はトイレ案内し、快適な排泄と自立支援に向け取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄の習慣やパターン、排泄意思の訴えが確認されている。夜間はゆっくりと睡眠してもらうために、おむつ使用の方もある。自分の意思に反する排尿があった時は、プライバシーに十分配慮して対応支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況を把握し、食事内容を考慮し水分補給を勧め、運動、腹部マッサージを行い緩下剤をうまく活用しながら自然な排便へとつなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に1回午後から入浴実施している。体調や本人の気分、心身の状態に応じ入浴時間や順番など臨機応変に対応し、入浴を楽しめるよう個々に沿った支援を行っている。	基本的な入浴日は決められているが、入浴の準備は毎日出来ており、希望する方は何時でも入浴できる。入浴順番等に特別な決まりも無く、それぞれにゆっくりとした入浴である。冬場はヒートショック対策もとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の身体状況や日中の活動と休息のバランスを考え、夜間臥床して頂くなど配慮している。不眠の方には眠剤や漢方の服用、ホットミルク等を提供し安眠に繋がるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で個人の内服薬の把握・理解に努め、誤薬を招かぬよう細心の注意を払い服薬介助を行っている。また、意識して状態変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに日常作業やレクリエーションを行い能力が発揮できる場を提供しハリがある日々が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や行事に合わせて外出支援行い、毎朝戸外にお参りにもいつている。お天気や入居者の状態により近所に散歩にも出かけている。家族協力のもとために外出される方もおられる。	希望やその日の天候によって買い物や散歩に出かけ、知り合いや近所の方との挨拶を交わす方もある。初詣、食事会、バルーンやコスモス見学等の行事計画によるバスハイクだけでなく、希望によって実家の近くや公園等にも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金を所持されている方がおられ、買い物に依頼されたり、外出時は、自分で買い物したりその場でジュースを飲んだり楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされる方はおられないが、スタッフが電話を掛けたり受けたりした場合は、本人に問い、代わってお話し出来るよう配慮している。また、写真入りハガキなど一言添え書きしてもらい、お元気の様子を分かりやすい様に工夫しやりとりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに行事の写真入り壁絵や貼り絵などを飾り、季節感を感じてもらえるよう工夫している。また、旬の食べ物を調理し、食事作りの音や香りを直に感じて頂き食欲を誘う空間作りをしている。太陽の日差しや、温度、臭いなどにも配慮している。	広くて明るく、外の風景を眺める事ができるリビングは、利用者のお気に入りの場所である。利用者は、ここでソファーや椅子で思い思いに過ごしている時間が多い。リビングに限らず、利用者第一の共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う入居者同士がコミュニケーションをとり楽しく過ごせるような場所作りをしている。廊下に椅子を設置し休息の場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのものを持参して下さるようお声掛けをし、家具やベッドが自宅の配置に少しでも近づけるよう配慮し、過ごしやすい空間作りに努めている。また、家族写真を掲示し安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	利用者一人ひとりのその方らしい居室になっている。家族写真、趣味の書道や手芸道具、家族の写真、作品展の表彰状、使い慣れた椅子や時計等色々な物が見られる。各居室とも家族や事業者の行き届いた配慮があり、落ち着いて過ごせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広々とした室内空間のなか、一人ひとりの状態を把握し、安全安楽に暮らして頂けるよう環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない